



墜落を繰り返し犠牲者を増やし続ける

オスプレイはいらない!

2024年 自衛隊機 事故損傷
10月27日 与那国島で

2023年 墜落8人死亡
11月29日 鹿児島県屋久島の沖合で墜落

2023年 墜落3人死亡
8月27日 オーストラリアで訓練中

2022年 墜落5人死亡
6月8日 カリフォルニアで訓練中

2022年 墜落4人死亡
3月18日 ノルウェーで訓練中

陸上自衛隊へは

欠陥を抱えたまま導入・運用

米国は、オスプレイに欠陥があることを知っていながら、知らせずに日本へ売りつけていたことが判明しています。

- 2010年: 米国防省がクラッチの欠陥を把握
- 2015年: 米国が日本へオスプレイを売りわたす
- 2016年: 米国が日本へ欠陥を伝えた

オスプレイは

危険を抱えたまま飛行再開

2023年11月29日に屋久島沖でアメリカ空軍の輸送機オスプレイが墜落し、乗員8人全員が死亡した事故を受けて全てのオスプレイの飛行を停止する措置が取られたが翌年3月14日から飛行を再開。

オスプレイいらない! 八千代ネットワーク

欠陥機から暮らしを守るために

陸上自衛隊の軍用機オスプレイは、尖閣諸島などの島嶼防衛で2018年に長崎県に新編された「水陸機動団」を迅速に輸送するために購入、しかし配備予定の佐賀空港が使えず千葉県の本更津駐屯地へ暫定配備されることに。防衛省は習志野演習場の上空を飛ぶ可能性があると回答した為、オスプレイから地域の生活と安全を守るために「オスプレイいらない! 八千代ネットワーク」が結成されました。

防衛省と本更津市は2022年にオスプレイの本更津駐屯地への5年間の暫定配備協定を結びました。17機の1機目が7月10日に本更津に配備されたことを受けて私たちは毎月10日に市内の主要駅頭にて、オスプレイ配備の抗議行動を行っています。8月12日に佐賀駐屯地へ全機が移駐しましたが、問題はまったく解決されていません。いつ墜落するか分からない欠陥機はすべて廃棄させ、どこの空にも飛ばない日をめざして今後とも反対運動を継続いたします。



当初の予定通り本更津には「5年間の暫定配備」で佐賀に移動となりますが、これで本更津駐屯地に関するすべての課題が解決したわけではありません。



米海軍の空母艦載機が厚木基地から岩国基地へ移った後も、厚木にはたびたび戻ってきて訓練が行われています。同様に今後の本更津駐屯地や千葉県内でもオスプレイの訓練飛行があると考えられます。



2017年から始まった「日米オスプレイ共通整備基盤」は、今後も規模を拡大しながら続けられます。現在、整備のための格納庫が本更津に2棟新しく建設中で、今後も日米のオスプレイが本更津駐屯地に飛来し整備される見通しです。



佐賀駐屯地には今回移るオスプレイ17機に加え、目達原駐屯地から移るヘリコプター約50機も配備される予定で、非常に大きな規模の拠点となります。民間の佐賀空港との共用に支障や危険が出るおそれや、騒音の増加、有明海への環境への影響など、地域住民の不安が広がっています。

どこの空にも 危険な欠陥軍用機 オスプレイはいらない!

私たち「オスプレイいらない! 八千代ネットワーク」は、「どこの空にもオスプレイはいらない!」という基本的な考えを大切にし、今後もオスプレイのない未来を目指して活動をしていきます。